

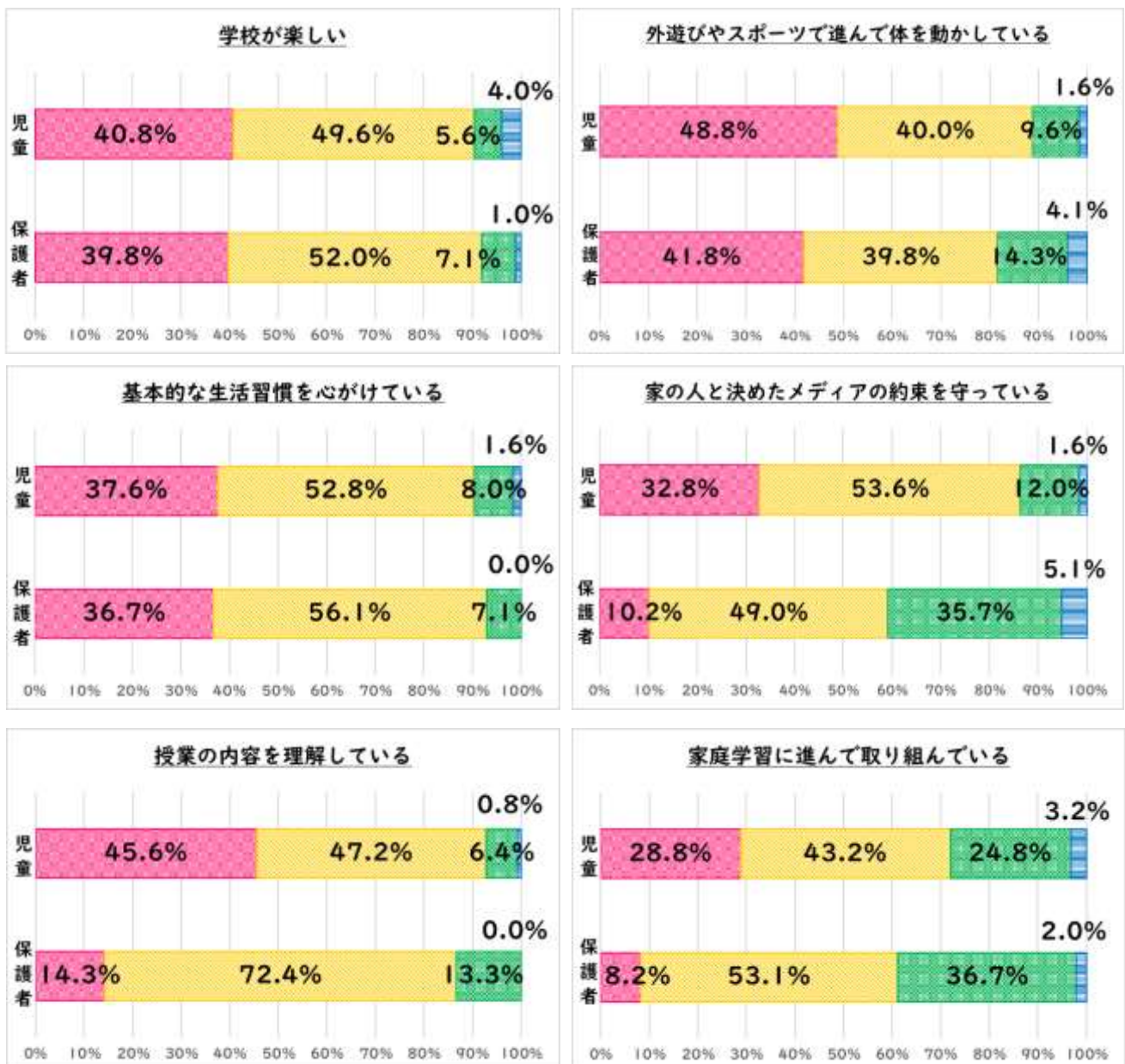
アクションプラン（9月まで）の結果及び学校評価アンケート（1学期）を踏まえた考察

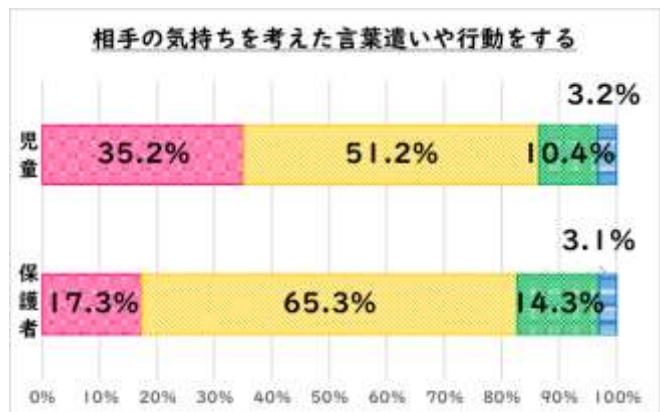
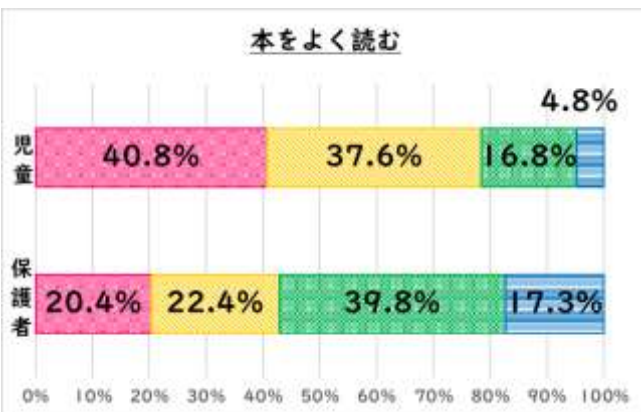
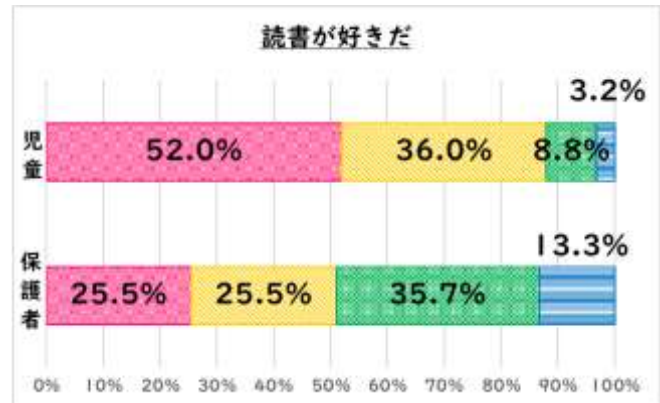
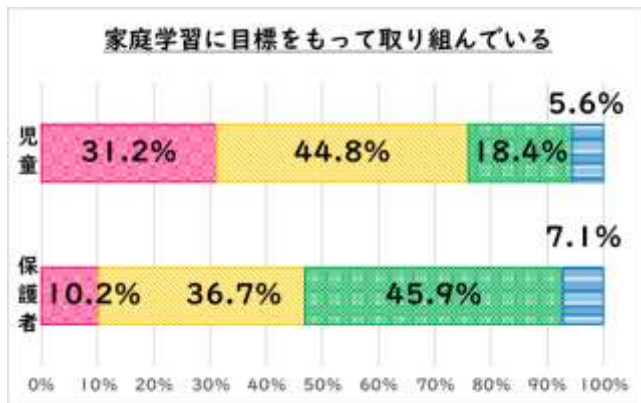
富山市立水橋西部小学校

保護者アンケート及び児童アンケートの集計結果を報告いたします。子供たちは、1学期の生活を振り返り、保護者の皆様にはお子さんの様子から感じられたことについて回答いただきました。ご協力ありがとうございました。

各項目について、児童、保護者の「とてもそう思う」「まあまあそう思う」「あまりそうとは思わない」「思わない」の割合を以下のとおりグラフに示しました。各項目の上段は保護者、下段は児童の結果を表しています。

とてもそう思う。
 まあまあそう思う。
 あまりそうとは思わない。
 思わない。





今年度、水橋西部小学校では、学校教育目標「仲間と関わり合い、暮らしをよりよくしていこうとする子供の育成」に向かって、(1)『学校が楽しい』と思う子供の育成、(2)「主体的に学ぼうとする子供の育成」、(3)「相手を思いやる心や、感動する心の醸成」に重点を置き、取り組んでいます。

1学期のアクションプランの結果を、学校評価の結果を基に考察しました。

(1) アクションプラン①

共通課題 (数値目標)	出席率を97%以上にする。
向上目標	「学校が楽しい」と思う子供を増やす。

4月	5月	6月	7月	8・9月
98.4%	98.0%	99.1%	98.5%	98.7%

○ アクションプランの結果（出席率より算出）

- ・4月から9月までの累計は98.6%でした。
- ・月毎に見ても97%以上という目標を達成することができました。

○ 学校評価（1学期）による考察及び2学期の取組

- ・「学校が楽しい」と答えた児童は90.4%、保護者は91.8%でした。どちらも90%以上だったことから、1学期の間、楽しく過ごせていた子供が多くいることがうかがえます。現在、校長室前の掲示板には、子供たちから寄せられた「楽しい学校にしようプロジェクト」案がたくさん張り出されています。「元気な挨拶がいっぱいの学校にしたい」と挨拶隊長に名乗りをあげて、校門前に立ち、登校してくる仲間に元気よく挨拶をしている2年生のAさん。「全校でさつまいもを育て、秋には収穫祭をしよう」と、さつまいもの苗植えや水遣り等日々お世話をしている6年生のBさん。「来校される方に綺麗な学校だと思ってもらいたい」と全校に協力を求め、学校のシンボルである松の木の周りに花を飾り、花いっぱいコンクールで努力賞を受賞した6年生のCさん。他にも「楽しい学校」を目指して、たくさんのプロジェクトが現在進行中です。こうして、自分で考えたことが実現していく体験を通して、子供たちは達成感を味わい、次の取組への意欲をもっていくのだと思います。しかし、「学校が楽しい」と感じられていない児童が9.6%いることも真摯に受けとめるとともに、今後も私たち教職員は子供たちの思いや願いを支え、子供一人一人が力

を十分に発揮できるよう支えてまいります。

- ・「授業の内容を理解している」と答えた児童は92.8%、保護者は86.7%でした。子供たちは、学校での大半を学習して過ごすことから、学校で楽しく過ごすためには、学習内容が「分かる」喜びを味わうことも大きな要因の一つであると考えます。2学期は、生活科や総合的な学習の時間を中心に据え、夢中になって取り組み、学びを楽しむことのできるような授業を推進します。また、全校で「楽しい学校づくり」を目指し自主活動を推進していきます。
- ・「基本的な生活習慣を心がけている」と答えた児童は90.4%、保護者は92.8%でした。ご家庭で基本的な生活習慣を心がけてくださった結果が、全校児童欠席なしの日が18日間（1学期末まで）、出席率累計98.6%につながったものと考えます。しかし一方で、「家で決めたメディアの約束を守っている」と答えた児童は86.4%、保護者は59.2%で、親子間で認識に大きな差がありました。メディアコントロールも基本的な生活習慣の一つであり、メディアコントロールを心がけることができれば、より健康に過ごすことにつながると考えました。本校では、水橋中学校のテスト期間に合わせてメディコントロール週間を設定しています。家で決めたメディアの約束を守るとともに、家族と有意義な時間を過ごすような週間にするすることで、身体も心も健康な天瀬っ子を目指していきます。

(2) アクションプラン②

独自課題 (数値目標)	家庭学習で、毎週、自己目標を達成する子供の割合を80%以上とする。
向上目標	主体的に学ぼうとする子供を増やす。

7月	9月
90.5%	93.6%

○ アクションプランの結果（自己評価より算出）

- ・7月から9月までの累計は92.1%でした。
- ・月毎に見ても80%以上という目標を達成することができました。

○ 学校評価による考察及び2学期の取組

- ・「家庭学習に進んで取り組んでいる」と答えた児童は72.0%、保護者は61.3%で、「家庭学習に目標をもって取り組んでいる」と答えた児童は76.0%、保護者は46.9%でした。どちらの項目についても、親子間で認識に差がありました。

昨年度、家庭学習に関して、子供たちは興味をもったことに進んで取り組むことができる傾向にあることが分かりました。昨年度は、家庭学習に取り組む時間を目標として自己決定できるようにしていましたが、今年度は選択肢を広げることで、いくつかの種類から選択し、さらに詳細を自己決定できるようにしました。まず、家庭学習を3種類のコース【こつこつコース（学校の宿題）】、【ぐんぐんコース（自主学習）】、【わくわくコース（興味のあること）】で子供たちに示しました。さらに、目当ての立て方も3種類【①1週間で○を□個以上取る】、【②1週間□コースを毎日続ける】、【③1週間毎日□種類のコースに取り組む】ことができるようにしました。子供たちは毎週、自分で目当てを立て、取組を振り返り、次週の日当てを立て直すことを繰り返しています。慣れるまでは複雑に感じるかもしれませんが、選択肢を広げたことで、子供は「自分が決めたこと」に継続して取り組もうとすると考えました。7月からの結果ではありますが、目標を達成している子供も多くいます。端末を活用した振り返りなので、担任も子供一人一人の実態を把握し、必要な支援を行うことができます。今後も、子供自身が主体的に取り組む中で、自己調整力を育んでいきたいと考えています。

(3) アクションプラン③

独自課題 (数値目標)	毎月、心が動いた本を見付けられる子供の割合を90%以上とする。
向上目標	相手を思いやる心や、感動する心を育む。

6月	7月	9月
99.2%	98.4%	96.0%

- アクションプランの結果（自己評価より算出）
 - ・ 6月から9月までの累計は97.9%でした。
 - ・ 月毎に見ても90%以上という目標を達成することができました。
- 学校評価による考察及び2学期の取組
 - ・ 「読書が好きだ」と答えた児童は88.0%、保護者は51.0%で、「本をよく読む」と答えた児童は78.4%、保護者は42.8%でした。どちらの項目についても、親子間で認識の差が大きく、読書に関する意識の相違が見られました。学校では週に1回は学級で図書室に行き、本を借りる時間をとっています。また、今年度は、毎週水曜日の朝読書の時間も、学級単位で図書室を利用可能にしました。校内で読書の機会を定期的に設けていることによって、「読書が好き」「本をよく読む」と答えた子供が多くいたのだと考えます。9月から月1回、朝読書の時間に、担任以外の教員による読み聞かせも行っています。校長、教頭、教務主任も含めた担任以外による読み聞かせは、子供たちにも興味深いものでしょう。HPでも読み聞かせの様子を掲載していますので、ご家庭で誰がどのような本を読み聞かせてくれたのかを話題にしてみてください。それが、家庭での読書活動のきっかけになればと思います。
 - ・ 「相手の気持ちを考えた言葉遣いや言動をする」と答えた児童は86.4%、保護者は82.6%でした。今年度のアクションプランに「心が動いた本」という表現を入れたのは、本を読むことで何らかの感情をもつこと、その感情を自覚することが大切だと考えたためです。私たち大人は、よく、子供に「自分がされて嫌だと感じることは、相手にもしてはいけない」逆に「自分がされて嬉しいことは、相手も嬉しい気持ちになるはずだよ」と話します。本の世界で様々な喜怒哀楽の感情を知ることが、自他を大切にす言動を学ぶことにつながっていくものと考えます。学校では、今後もメディアコントロール週間や委員会活動等を通して、子供たちがたくさんの本に出合う機会を設けていきます。

1学期の始業式、校長は、子供たちに「誰一人も取り残さない、楽しい学校を一緒につくっていきましょう」と投げかけました。学校では、子供たちが充実した学校生活を過ごすことができるよう、保護者の皆様からいただいたご意見を生かしながら教育活動を工夫し改善を図り、学校の教育目標の実現を目指してまいります。今後とも、ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。